

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成29年12月21日(2017.12.21)

【公開番号】特開2016-116040(P2016-116040A)

【公開日】平成28年6月23日(2016.6.23)

【年通号数】公開・登録公報2016-038

【出願番号】特願2014-252295(P2014-252295)

【国際特許分類】

H 0 4 N	5/232	(2006.01)
B 2 9 C	67/00	(2017.01)
G 0 3 B	17/18	(2006.01)
G 0 3 B	35/08	(2006.01)
G 0 1 B	11/00	(2006.01)

【F I】

H 0 4 N	5/232	Z
B 2 9 C	67/00	
G 0 3 B	17/18	Z
G 0 3 B	35/08	
G 0 1 B	11/00	H

【手続補正書】

【提出日】平成29年11月8日(2017.11.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

ここで造形分解能とは、想定している造形装置がどの程度の細かさで立体物を造形可能かという程度を表し、例えば、0.02mmピッチで造形可能な装置の場合、造形分解能は0.02mmとなる。造形分解能の入力は、値を直接入力する方法のほか、装置の型番を入力する方法など、他の方法を用いてもよい。この場合、いくつかの造形装置について、装置を特定する情報(例えば装置の型番)と造形分解能とを対応付けてメモリ部6に記憶させておき、入力部7から入力された型番を用いてシステム制御部3がメモリ部6を参照し、造形分解能を取得することができる。システム制御部3は、入力された造形分解能、もしくは取得した造形分解能を造形分解能記憶部11に記憶する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 4】

従って、システム制御部3は、比較部14から取得分解能が不足しているとの比較結果を取得すると、取得分解能を上げる方法とともに再撮影を促す情報を表示部15に表示させる。図9(a)は取得分解能が不足している場合の表示例を示しており、取得分解能が不足していることを報知する情報の一例としてのメッセージ1_6_1と、取得分解能を上げるための方法を報知する情報の一例としてのメッセージ1_6_2が含まれている。これらの報知は音声によって行ったり、特定のインジケータの点灯など、他の任意の方法で行うことができる。また、図9(a)の例では撮影後の再生画面もしくはライブビュー画面にお

いてメッセージ表示を行っているが、他の表示画面に対してメッセージ表示を行ってもよい。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

取得分解能は撮像画像に占める被写体の領域が大きくなるほど高くなる。したがって、再撮影時には前回撮影時よりもカメラ1を被写体に近づけるか、撮像レンズ2がズームレンズであれば入力部7に含まれるズームレバーを操作するなどの方法で撮像レンズ2の焦点距離を大きくすればよい。そのため、メッセージ162ではこれらの方法をユーザに報知している。なお、画像の撮影に用いられる画素数を増やす（例えば撮影画像サイズが小さい場合に、より大きなサイズとする）など、他の方法を報知してもよい。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0048

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0048】

その結果、取得分解能23bが造形分解能33とが式（1）や式（5）の関係を満たすと、システム制御部3は、比較部14から十分な取得分解能の3次元情報が取得されているとの比較結果を取得する。そして、システム制御部3は、十分な取得分解能の3次元情報が取得されたことを示す情報を表示部15に表示させる。図9（b）は取得分解能が十分な場合の表示例を示しており、取得分解能が十分であることを報知する情報の一例としてのメッセージ163が含まれている。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0079

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0079】

S1604での判定範囲において、十分な取得分解能の3次元情報が得られており、さらなる撮影を行う必要がないと判定された場合、S1605でシステム制御部3は3次元情報の統合を行う。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0096

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0096】

一方、後者の場合システム制御部3は、S1304で算出した造形分解能を比較部14に供給する。比較部14は造形分解能記憶部11に記憶されている複数の造形分解能のデータを参照し、システム制御部3から得た造形分解能と同じもしくはそれより高い造形分解能に対応した造形装置を検索し、検索結果をシステム制御部3に返す。システム制御部3は、比較部14から取得した造形装置の情報を、図14（b）に示したように表示部15等を用いてユーザに報知する。

【手続補正7】

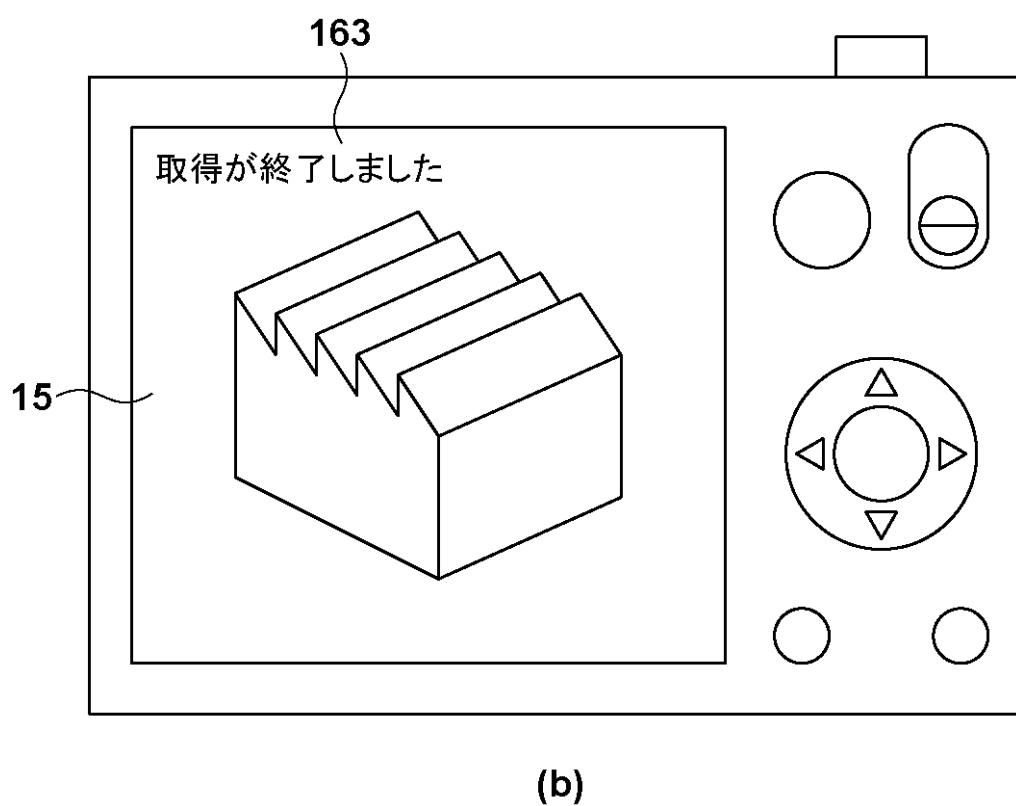
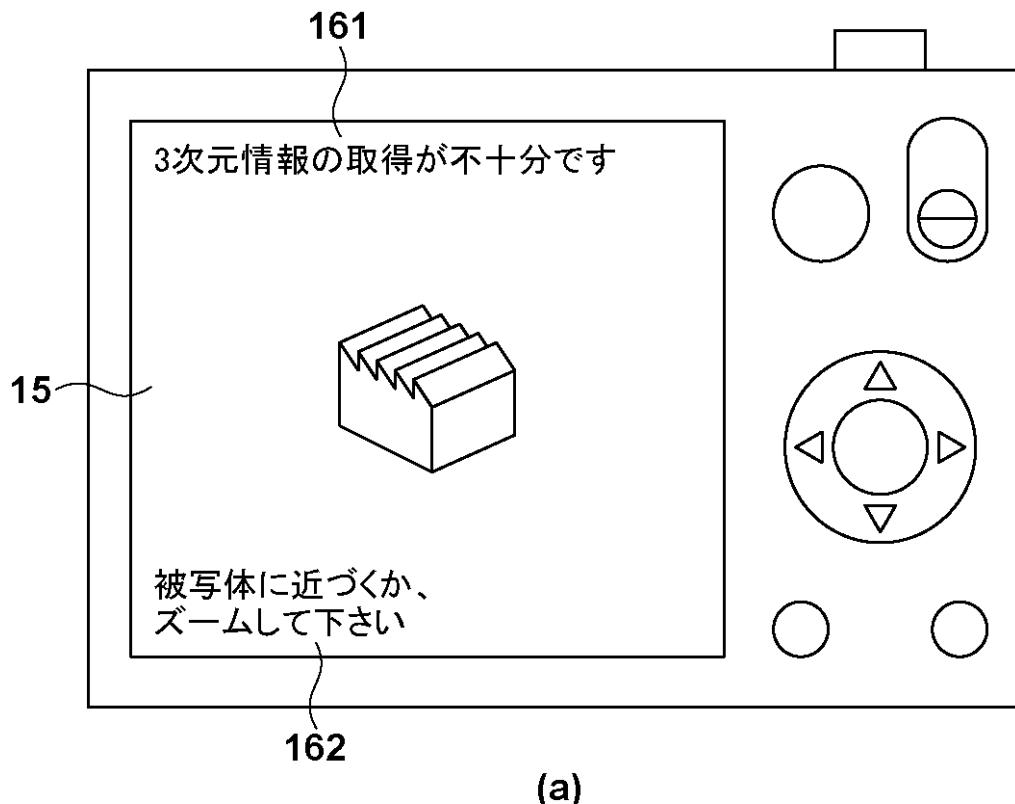
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 9】



【手続補正 8】

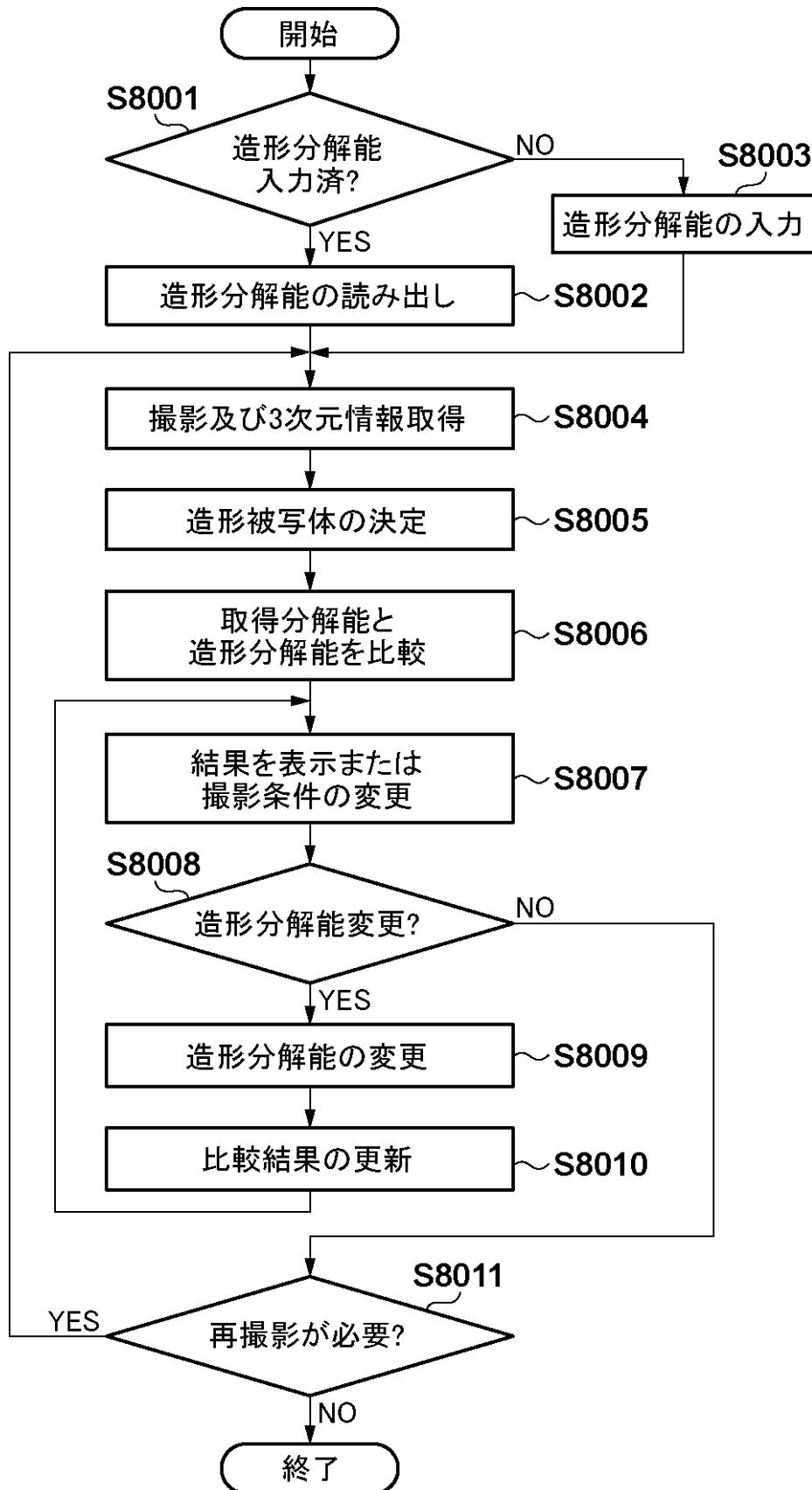
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 1】



【手続補正 9】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 7】

